

★世界を股にかけて活躍するベースマン&コンポーザー★

カイル・イーストウッド【Kyle Eastwood】



2019年12月に大好きな“映画”に捧げた2年振り、9枚目のリーダーアルバム『シネマティック』をリリースしたベースマン&コンポーザーのカイル・イーストウッド。父は言わずと知れた名優で名監督のクリント・イーストウッド。父クリントの才能を受け継ぎ、音楽の世界、ジャズシーンで世界を股にかけて大活躍しているカイルが、ブルーノート東京でのステージ前に最新アルバムのこと、音楽、ジャズ、ベースについて語ってくれた。本誌のタイトルを見て「ベースマンのことだね！」と直ぐに察してくれたことはとても嬉しく、何よりナイスガイでイケメンだったカイル。その音楽愛、ジャズ愛、ベース愛を感じる貴重なインタビューとなった。

【2020年2月13日取材・文：加瀬正之
取材協力：キングインターナショナル&ブルーノート東京】

♪『シネマティック』は選曲、演奏共に素晴らしいアルバムですが、選曲はかなり悩みましたか？

数多くの映画音楽があって、たくさんの選択肢があったけど、誰もが知っている有名な映画だけでなく、あまり知られていない映画からも選びたかったんだ。また、ジャズにアレンジ出来るような曲やバンドにフィットしそうな曲、それと、エンニオ・モリコーネ等、私のお気に入りの作曲家が手掛けた曲を選んだんだ。

♪『シネマティック』で一番聴いて欲しいところはどこですか？

それはいい質問だね。このアルバムは私の映画に対するオマージュなんだ。私が一番愛情を注いでいるのは音楽だけど、映画も大好きで、幼い頃から父や家族とたくさんの映画を観て育ったからね。映画と映画音楽も大好きだったから、いつか映画に捧げるアルバムを作りたいと思っていたんだよ。

♪このアルバムについて、お父さんの反応はどうでしたか？

父もとても気に入っていて、アルバムを聴いてエンジョイしているよ。アルバムでは父が監督・主演した映画音楽も取り上げていて、それ以外の曲も気に入ってくれたみたいだね。父も長い間聴いていなかった曲があって、今回私が選曲したことによって素晴らしい曲だねと思い出していたよ。

♪日本の映画や音楽でお気に入りのものはありますか？

よく覚えているのは、アキラ・クロサワ（黒澤明）の映画だね。幼い頃から彼の映画を観て育ったんだ。「用心棒」とかね。父も大ファンだったよ。他にもたくさんの日本の映画やヨーロッパの映画も観たけど、とても良い勉強になっている。日本の音楽では、ジャズ・ミュージシャンでよく知っているのはギターのカズミ・ワタナベ（渡辺香津美）だね。会ったこともあって、私がベースを教わったバニー・フルネルも彼とツアーをしたことがあったんだ。あと、サクスのサダオ・ワタナベ（渡辺貞夫）。彼は素晴らしいジャズ・ミュージシャンだね。

♪これから音楽を手掛ける予定の映画はありますか？

現時点では何も決まっていないけど、また手掛けてみたいと思っている。父の映画にも関わりたいね。だけど、私は常に世界中をツアーをして回っているから、スケジュールがなかなか合

わなくてね。出来れば今年中に実現したと思っているけど、年内はとても忙しいんだ。

♪バニー・フルネルにベースを師事されましたが、好きなベーシストを3人挙げて下さい

バニーはその1人だね。彼の演奏を初めて見たのは、1979年でロサンゼルスだったと思う。彼のようにエレクトリック・ベースを弾くのはそれまで見たことがなかったからとても感動したよ。彼は私にとってとても重要なベースの先生でもあったからね。彼は私を幅の広い良いミュージシャンになるように押し上げてくれたんだ。あと、アップライト・ベースを弾くきっかけにもなったんだ。その他にも影響を受けたベーシストはたくさんいるよ。ポール・チェンバースは本当によく聴いたね。彼のベースラインやベースソロを聴き込んで研究したんだ。レイ・ブラウンももちろん影響を受けたし、ロン・カーターもね。あと、アンソニー・ジャクソンやジャコ・パストリアス、ジェームス・ジェマーソンとかね。

♪影響を受けたジャズ・アルバムを3枚挙げて下さい

ああ、いいとも！ お気に入りのアルバムはチャールス・ミンガスの『ミンガス・アー・アム』。曲やサウンドも驚くほど素晴らしい。2枚目はそうだな…、アート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズの『ザ・ビッグ・ビート』かな。素晴らしい楽曲で、バンドとしてもウェイン・ショーター、リー・モーガンがいて、間違いなく大好きなアルバムだね。3枚目は定期的に聴きたくなるデイヴ・ブルーベックの『タイムアウト』だね。このアルバムは私にとって特別なんだ。両親がよくこのレコードを聴いていて、私も子供の頃から聴いていたから、幼少期の懐かしい思い出として残っているんだ。この3枚以外にもたくさんの大好きなアルバムがあるから3枚だけ選ぶのはなかなか難しいね（笑）。

♪以前、本誌の“3つの願い”にご協力頂きありがとうございます。今も願いは変わらないうですか？

- 1 耐えられないことの終焉。
- 2 これまで以上の芸術と文化への支援と理解。
- 3 生涯音楽を演奏し続けることができること。

どんな3つの願いを上げたんだったっけ？ あ〜思い出した！（笑）。とてもいい願いだね。今もこの願いは変わらないよ！



Photo : (c) Jerome Bonnet Modds

♪ **あなたにとってベースとは何ですか？**

私の人生そのものだね。30年くらいベースと共に人生を歩んでいる。一番最初に演奏したのはピアノで、6歳か7歳の頃に弾きはじめてんだけど、今でもピアノを弾くのは好きだよ。でも、私が気になっていたのはドラムやベースだった。ベースは独学で弾き始めて、ミュージシャンの友人やベーシストの友人もいたからいろいろ聴いたり学んだりしたよ。そのうちにベースを弾くことがごく自然になったんだ。

♪ **初めからジャズを演奏していたのですか？**

いや、最初はブルースやR&Bとか、3コードのロックンロールとかだったね(笑)。ジャズは幼い頃から聴いて育ったし、大好きだったから、そのうちにジャズのコードやハーモニーを学んで、ジャズを演奏するようになったんだ。

♪ **日本のイメージについて**

美しい国だね。日本に戻って来ることはいつもとてもハッピーなんだ。素晴らしいジャズクラブもあるし、日本で演奏するのは大好きだね。東京は驚くべき街だし、素晴らしいエネルギーに満ち溢れていて、食べ物も美味しいしね。東京以外の街も美しくて大好きだよ。1984年から1985年に初めて日本に来た時は、京都や奈良に行ったんだ。本当に美しかった。

♪ **作曲はどのようにしていますか？**

普段はピアノで作曲することが多いね。時々ベースを弾きながら作ることもある。ソロで弾いてみたりしてね。通常は最初にコードを書いて、それからメロディを付けて曲を発展させていくんだ。家で作る時もあれば、ツアー中に作ることもある。でも、休みの時に家でピアノやベースで作曲することが多いかな。

♪ **2020年に特別なプランはありますか？**

今年はとにかくたくさんのコンサートが予定されているんだ。日本公演が終わったら、3月から5月の初めにかけてヨーロッパをツアーして回る予定で、その後数週間休んで、夏はまたヨーロッパに戻って演奏するんだ。それから9月には、カリフォルニアで行なわれる「モントレー・ジャズ・フェスティバル」に出演する予定で、ボストンやおそらくニューヨークでも演奏することになるだろう。それからまた数週間休んで、10月、11月は再びヨーロッパに行く予定だよ。

♪ **現在はフランスのバリを拠点にしているのですか？**

パリにはこれまで12年程住んでいる。1年の半分近く、6-7ヶ月はパリで、その他はカリフォルニアで過ごしているんだ。特に冬の寒い時期はね(笑)。家族は皆カリフォルニアに住んでいるから、毎年12月から1月にかけてはカリフォルニアで過ごしている。カリフォルニアにはとにかく暖かいからね(笑)。

♪ **音楽以外の趣味はありますか？**

スポーツは好きだね。以前はゴルフをよくやっていたし、テニ

スやスノースキーもやったよ。でも、その他に興味と言えるものはあまりないかな。音楽のことで常に忙しいからね。ツアーがなかったり、音楽に携わっていない時は家族と会って、家族と一緒に時間を過ごすことが多いかな。ツアーで飛行機や列車やバスに揺られる生活から離れてリラックスできるからね。

♪ **あなたの夢や目標は何ですか？**

音楽を演奏し続けて、音楽を作り続けること。常により良い音楽、より素晴らしい音楽を作りたいと思っているし、ミュージシャンとしてもっと成長したいと思っている。また、いろいろなミュージシャンと一緒に演奏したり、もっとたくさんの異なるプロジェクトに関わったりもしたいね。

♪ **共演してみたいミュージシャンはいますか？**

そうだね、たくさんいるけど、スティーヴィー・ワンダーとはいつか共演出来ればと願っている。実現できたら素晴らしいね。彼は大好きなミュージシャンだし、才能あるコンポーザーでミュージシャンでもあるからね。一緒に何曲か演奏出来たら最高だね。

♪ **いつかベースソロによるアルバムを作りたいとは思いませんか？**

ソロベースでかい？(笑)。現時点では考えていないし、今は何もわからないけど、近い将来考えてもいいかもしれないね。次のアルバムのことは何も決まっていないけど、ツアーがひと段落する今年の終わり頃に考えようと思っているよ。

♪ **最後に The Walker's 読者と日本のファンにメッセージをお願いします**

ベースでウォーキングし続けるように、私の音楽や音楽自体をサポートし続けて欲しい。音楽をサポートしてもらうことはとても大切だからね。ミュージシャン、そして、アート・芸術をサポートして欲しいね。

【カイル・イーストウッド オフィシャルウェブサイト】

<http://www.kyleeastwood.com>

シネマティック / CINEMATIC



キングインターナショナル
KKE-102
¥2,750 (税込)
2019年12月20日発売

**【P11 < Jazz New Disc >
でも紹介！】**